

山梨県衛生環境研究所年報

平成 22 年 第 54 号

Annual Report of
the Yamanashi Institute for Public Health

No. 54, 2010

山梨県衛生環境研究所

はじめに

東日本大震災で大きな被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

この地震により発生した大津波は、東日本各地の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。また、東京電力福島第一原子力発電所では、大量の放射性物質の放出を伴う重大な原子力事故が発生して、周辺一帯の住民の方々は、いつ戻るができるのかわからない避難を余儀なくされました。この放射性物質による汚染問題は、かつてのスリーマイル島の原子力発電所や、チェルノブイリの事故レベルを超えるものとなってしまいました。

今回の事故は、我々地方の衛生環境研究所にも大きな社会的使命を与えました。すなわち環境中の放射線量の測定をはじめ、飲料水や食品類、農畜産物などの放射性物質について必要とされる検査を行い、県民の皆様の安心・安全を確保する観点からの確かな情報を発信していくことでもあります。このため、現在までに、検査機器の増設や人員の確保等、検査体制を関係機関とともに整えてまいりました。結果の迅速な提供につとめてまいるところであります。

さて、今更申すまでもありませんが当研究所は、保健分野と環境分野をあわせもった合併型の地方研究所であり、また、県民の健康と安全を守るための中核となる検査研究機関であります。一方、行政施策に必要な科学的根拠の提供を行うという使命も担っています。

こうしたことから、県民ニーズや行政ニーズに対してより効率的、効果的に応えることのできる研究所であることが一層求められております。

我が国未曾有の震災被害を目の当たりにし、その危機管理への対応を改めて肝に銘じ、今後とも、特殊技術を継承しつつ的確な人材育成のできる研究所、行政のシンクタンクとしての役割を担う研究所、県民への情報提供を積極的に行なうことのできる開かれた研究所、さらに、災害・健康危機へ即応できる研究所としての機能が発揮できますよう所員一同努力してまいりますので、関係各位の一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

ここに平成 22 年度の調査・研究の成果を「山梨県衛生環境研究所年報第 54 号」としてとりまとめました。この年報が皆様にとって少しでもお役に立つことを期待しております。

平成 23 年 7 月

山梨県衛生環境研究所

所 長 村 松 克 彦

目 次

I	組織と沿革	1
II	業 務 報 告	
	企画情報科、総務スタッフ	2
	生活科学部	6
	微生物部	8
	環境科学部	11
III	資 料	14
IV	学会発表等	32
V	研 究 報 告	
	山梨県富士川流域の水道水質の特徴	35
	甲府盆地における蒸発散量推定法の検討	39
	1971～2009年度の公共用水域水質測定結果からみた 県内最下流地点の河川水質の経年推移について	43
	高速液体クロマトグラフィーによる 食品中のソルビン酸、安息香酸分析法について	48
	山梨県産果実類の農薬使用履歴に基づく残留農薬調査	52
	山梨県産ワインと果汁、及びぶどうにおける残留農薬実態調査	56
	残留農薬実態調査による県内に流通する農産物の安全性評価	60
	韮崎市(穴山)における蚊類の生息調査報告(2010)	64
	山梨県におけるインフルエンザの検出状況(2009～2011)	69
	山梨県における日本脳炎ウイルス感染リスクについて	73
	移動測定局による光化学オキシダント補足調査について	76
	山梨県におけるNO _x 濃度の近年の状況について	80
	照度ロガーを用いた湖沼透視度の連続測定	83
	山梨県における外来プラナリアの生息確認	86
	現場分析法を用いるリン酸イオン濃度の経時変化について	88
	山梨県内の浄化槽放流水の水質検査結果について	91
	山梨県内の浴場施設におけるレジオネラ属菌検出状況について	95